

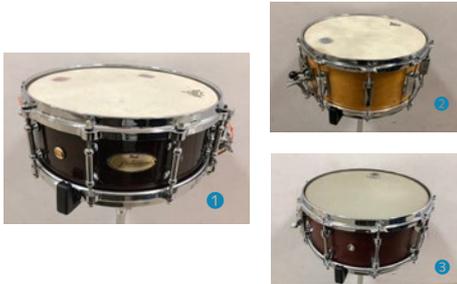
オオサカン楽員の 楽器の小屋～オオサカンサウンドの源～

楽員と楽器の関係を探る連載企画、第3弾は **\\打楽器奏者 石山歩！**
楽器へのこだわりや大事にしていることを伺います。

打楽器
石山歩 Ayumi Ishiyama



メインで担当している楽器で、使用しているものは？



- ① Pearl(パール) PHM1450/C 14"×5"
- ② Clevelander(クリーブランドー)14"×6.5"
- ③ SAKAE(サカエ)14"×5"

この楽器を選んだ理由や気に入っているところは？

メインで使っているのはPearlのもので、2019年にオオサカンでアメリカ公演をした際、レッスンを受けたシカゴ交響楽団のシンシア・イーさんが使用していたモデルです。

もともとこのモデルは裏側のスネア(響き線)がコード(線)のものが2種類と、くるくるとワイヤーを巻いたコイル状のものが1種類ついていますが、シンシアさんはコイル状のものは全く使用せず、すべてコード状のものにされていました。その音が歯切れよく、理想的な音だったので、同様の響き線に変えて使用しています。

そしてマーチなどを演奏する時はClevelander。とにかく歯切れよく、存在感の強い音で、バンドを引っ張っていく時にはもってこいの楽器です。

そしてニューイヤークンサート等、クラシック作品や古い時代の吹奏楽作品などはSAKAEを使用しています。①②に比べると少し落ち着いた印象の音がします。この音ひとつで演奏する曲の雰囲気を変えられるので、とても頼りになる存在です。



お気に入りの楽器について詳しく教えてください。



◆ドラムセット：Pearl MRS

- | | |
|---|--------------------------|
| ①ハイハット：AA-14TRH/TBH medium | ⑤スネアドラム：Pearl MRP1455S/C |
| クラッシュシンバル：② A Zildjian Medium Thin Crash 16", | ⑥トムトム：10"×7", 12"×8" |
| ③ K Zildjian Sweet Crash 16" | ⑦フロアトム：16"×14" |
| ④ライドシンバル：Paiste 20" | ⑧バスドラム：20"×16" |

ドラムセットはポップスの要。リズムやテンポはもちろんのこと、演奏するジャンルによって様々な種類の太鼓やシンバルの音色が求められます。

吹奏楽の場合は、1曲の中でもジャンルが多岐に渡ることがあり、ジャンルが変わる度に楽器を変えるのも難しいため、オールマイティに演奏できる楽器を選択しています。

シンバルなどもメーカーやモデル、サイズなどをその時々に合わせてながら準備。レコーディングの時は、どれを使うか選びながら演奏するため、ものすごい量を並べる時も！

お気に入りのスティックや、こだわりポイントは？



スネアドラムを演奏する時は、Innovative Percussion(イノベティブ・パーカッション)のCL-6(①)という合板で出来たスティックをメインで使用しています。もう少し細やかな音が必要な場合にはPLAY WOOD(プレイウッド)のGS-145AS(②)を使用。いずれもある程度重さがあって、芯のある音が出せるものを選んでます。



ドラムセットを演奏する時はVIC FIRTH(ヴィック・ファース)の7A(③)か5A(④)という2種類の太さのものを使用していて、音量を出したい時は太い5Aを選びます。そしてドラムセットの場合はスティックが落ちないようにつけているゴム(⑤)がポイント！指にかけて滑らないようにすることで、スティックをぎゅっと握ることなく脱力した音を実現できる優れものです！

My 楽器の収納スペースは？



楽器の量が多いので、倉庫に収納していますが、どんどん増える一方で、そのたびに模様替えをしています。写真はほんの一部ですが、ドラムセットと、スネアドラム6台程を収納するとこんな感じ。ちょうどいい高さに棚を変え、出し入れがしやすいようにしています。

楽器を演奏する時に大事にしていることは？

吹奏楽においては、主体は管楽器であるため、「管楽器の皆さんが演奏しやすい打楽器」であることを心掛けています。テンポ感やリズム感であったり、音色・音量であったり…打楽器の前に管楽器の人たちがいるので、どうやったら演奏しやすいかを大切にしながら演奏するようにしています。

そして、打楽器は特に演奏している場所で聴こえている音と、客席や指揮者の位置で聴こえる音が異なるもの。自分がどう演奏しているかももちろん大事ですが、客席でどう聴こえるかを常に気にしながら、時にはパート内の人たちと交代して客席で自分の楽器の音を聴いてみるなど研究を重ねています。

あなたにとって「打楽器」とは？

自分をワクワクさせてくれる友達。種類も多くて、各楽器で演奏方法も違って、それは時には難しい点ではありますが、いつまでも飽きることはないたくさんの友達に囲まれているような感覚です。これからさらに仲良くなっていけるように、仲を深めていきたいと思っています！

